

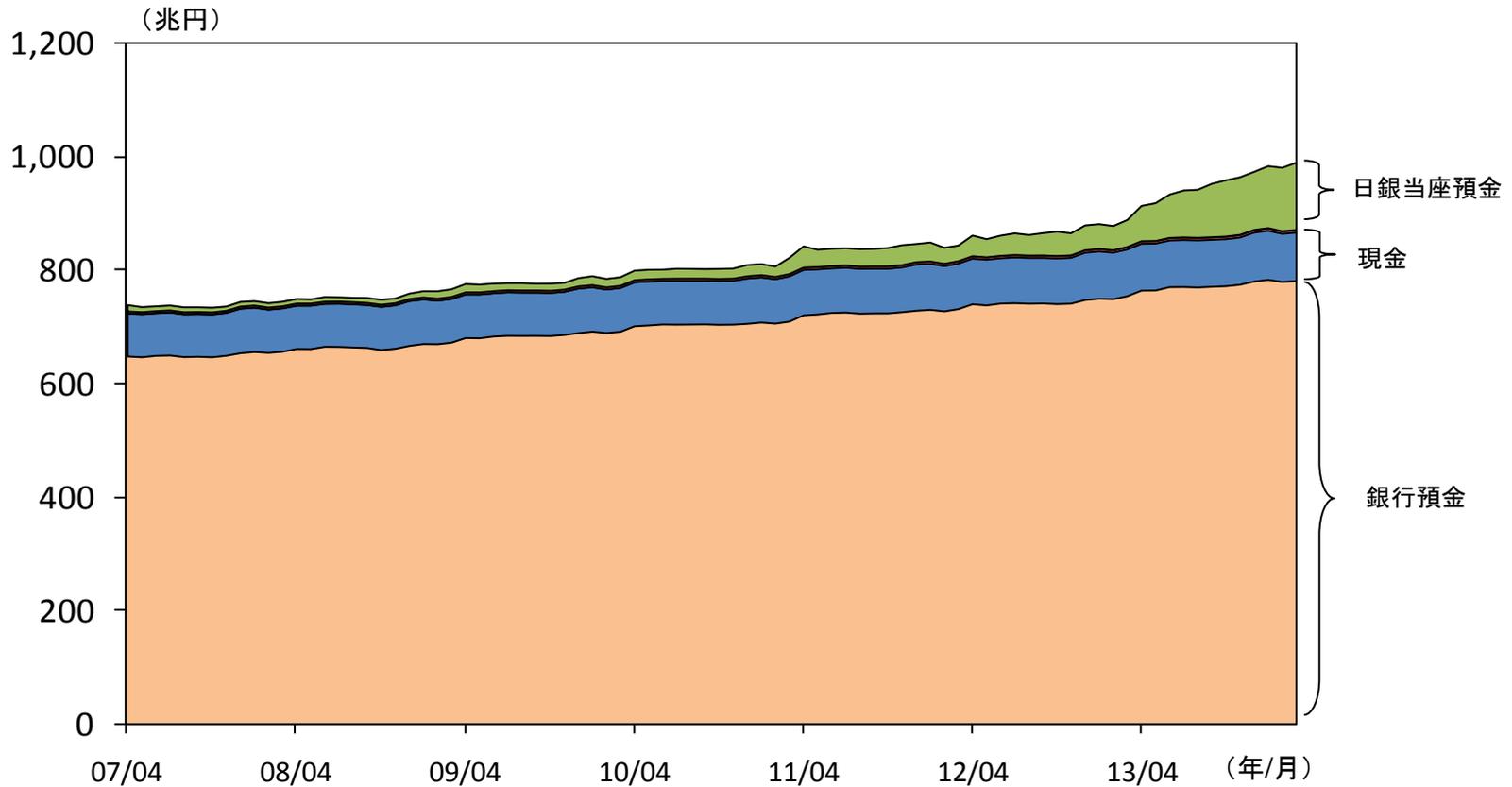
わが国の決済システムの概要と潮流

2014年10月29日

日本銀行 決済機構局

「お金」の種類

▽ 銀行預金、現金、日銀当座預金の残高推移

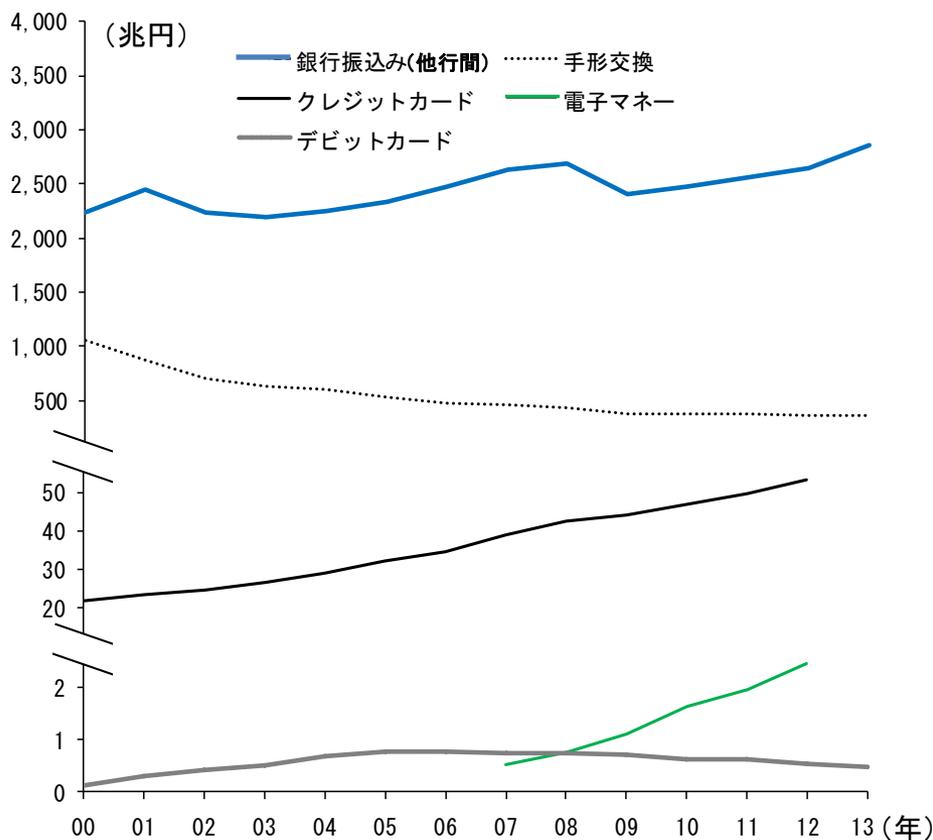


(注) 平残。「銀行預金」は、M2からM1の内訳の「現金通貨」を引いて算出。

(出所) 日本銀行「マネタリーベース」

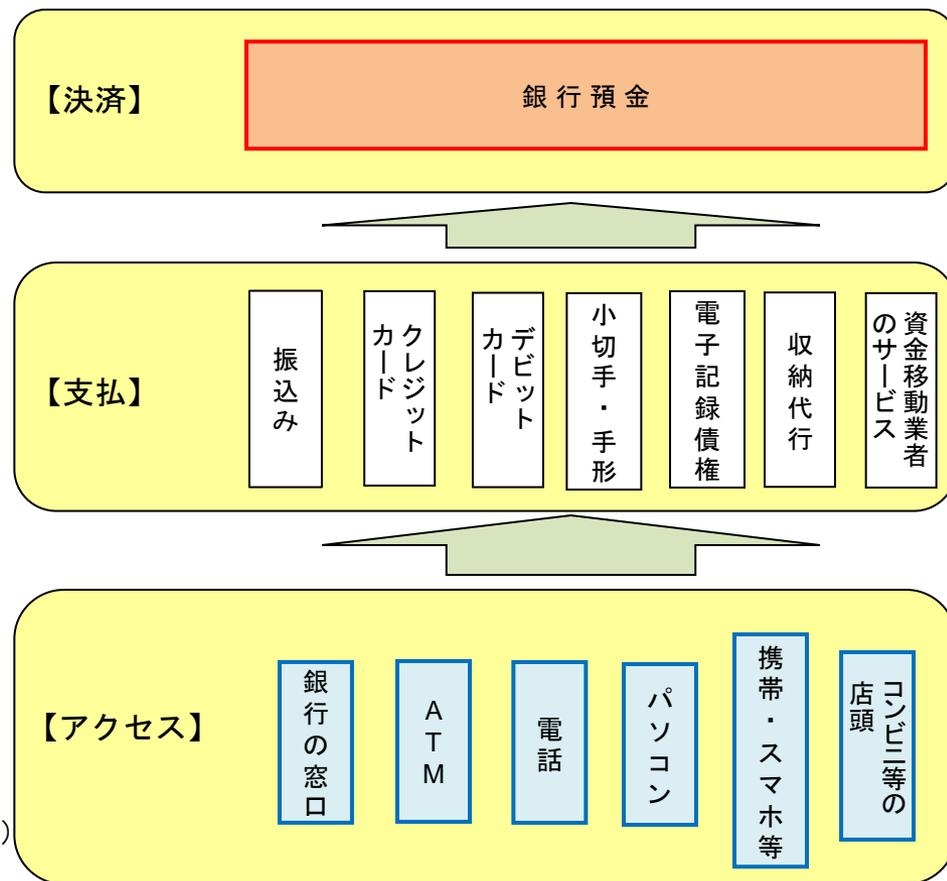
銀行預金を用いる決済サービス

▽ 主要な支払手段の取扱金額推移

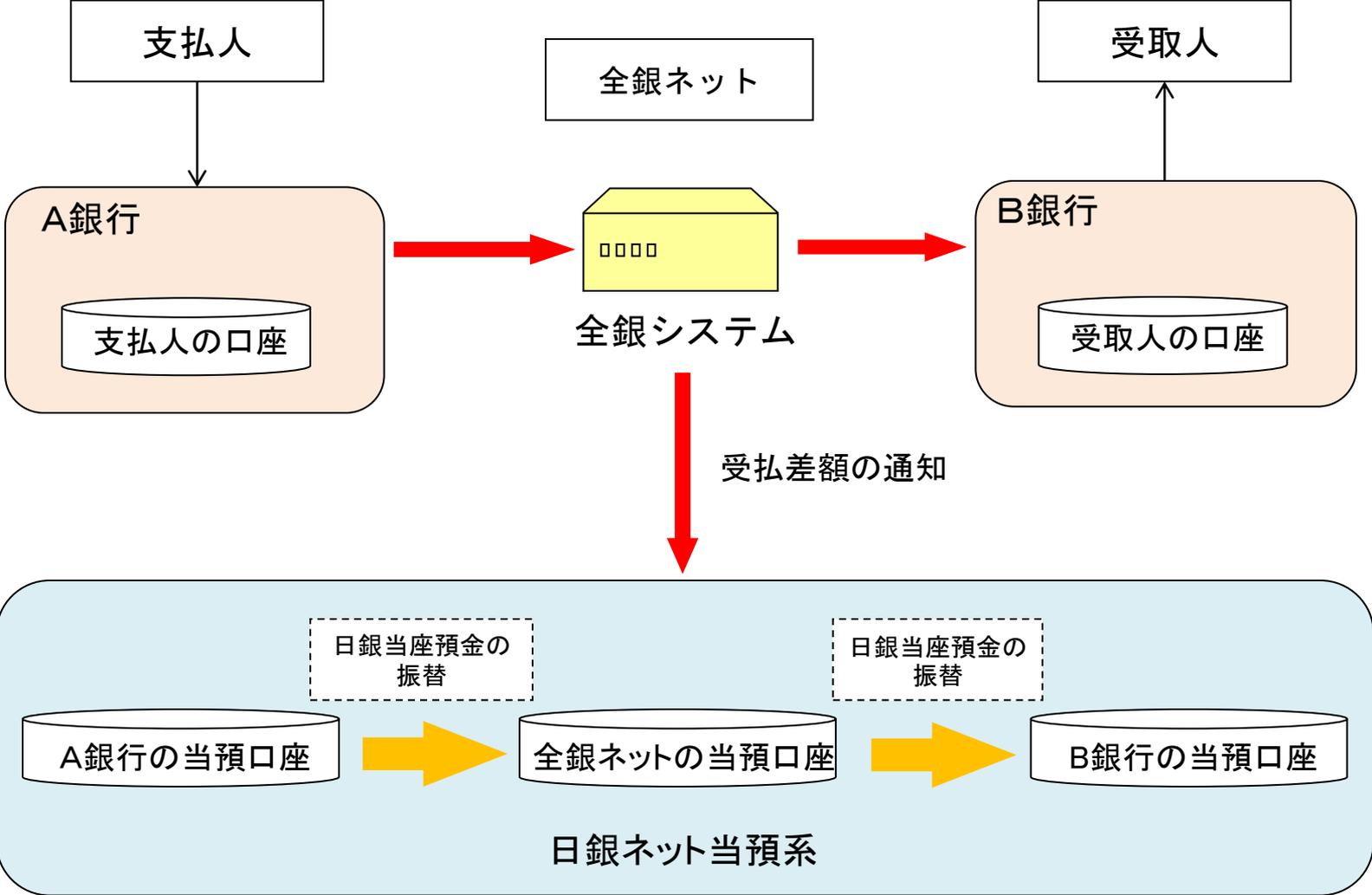


(出所) 全国銀行協会「決済統計年報」、
 日本クレジット協会「日本の消費者信用統計」、
 日本デビットカード推進協議会事務局「J-Debit取引実績報告」、
 日本銀行「決済システムレポート2012-2013」

▽ 支払から決済までのプロセスのイメージ

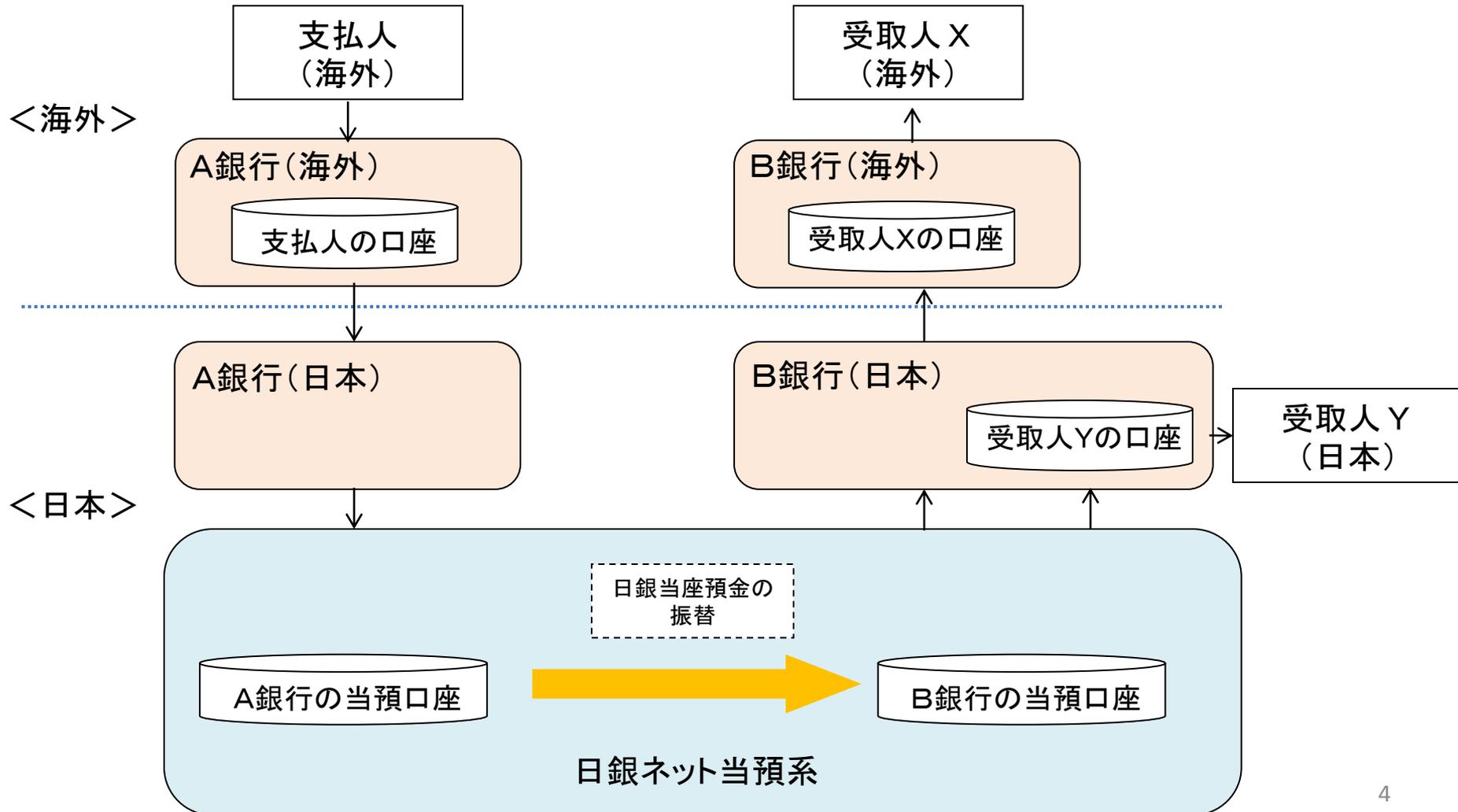


銀行振込みの仕組み

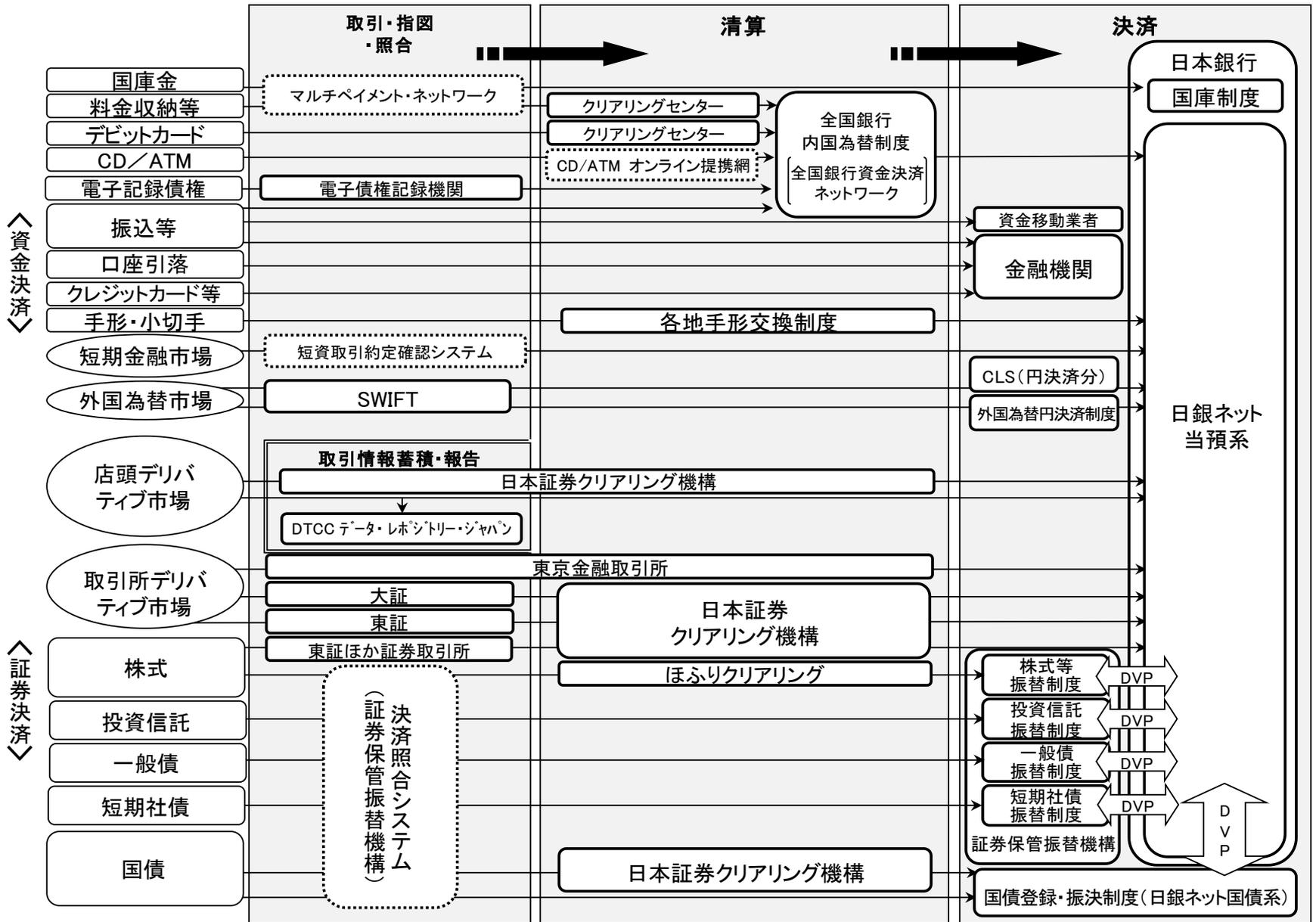


日本円の外国送金の仕組み

▽海外から、日本または海外への送金の場合



わが国の決済システムの概要



決済システムの発展の潮流

		わが国の主な動き	
70年代		全銀システム稼動(1973)	
80年代	金融の自由化・国際化、国債発行の増加	国債振決制度整備(1980) 日銀ネット当預系稼動(1988)	効率性向上 (処理量の拡大)
90年代		日銀ネット国債系稼動(1990) 証券保管振替機構開業(1991)	国債DVP決済開始(1994) 国債ローリング決済へ(1996)
00年代	アジア・米欧の金融危機と国際規制の強化		日銀ネットRTGS化(2001) CLSの外為同時決済開始(2002) 証券清算機関の開業・DVP化(2003~05)
10年代	一段のグローバル化・IT化	日銀ネットに流動性節約機能導入(2008) ASEAN+3が域内決済システムの接続を提言(2014) 全銀システムのあり方に関する検討(2014) 新日銀ネットの全面稼動(2015<候補>)	
20年代		日銀ネットの稼動時間を21時までに延長(2016<候補>)	

安全性向上
(リスクの削減)

決済の高度化の方向性

経済活動のグローバル化

- 例えば、外貨調達や、国境を越えた送金・担保差入れを円滑に行いたい

IT化に伴う企業・家計のニーズの多様化

- 例えば、時間・曜日を問わず、お金の受払いを安全・便利に行いたい
- 例えば、ITを活用し、STP化を図ることにより、生産性を向上させたい

決済の高度化

- 決済システムの稼働時間拡大
- 決済システムへのアクセスのグローバル化

- 銀行振込みにおける即時入金可能時間の拡大
- 企業間取引における金融EDIの利用促進

新日銀ネット※の基本コンセプト

※ 全面稼働候補日：2015年10月13日。

最新の情報処理技術の採用

- 現行の日銀ネットのシステム基盤を抜本的に見直し、汎用性が高く、今後の発展が期待される最新の技術を採用することにより、情報処理技術の進歩を円滑に取り入れていくことを可能とする。

変化に対して柔軟性の高いシステムの構築

- 機能の統廃合およびプログラムの共通化などを通じ、複雑化した現行システムのスリム化を図り、今後の金融サービスの内容や様々なニーズの変化に柔軟に対応することを可能とする。

アクセス利便性の向上

- 内外の決済システムや金融機関との接続性を改善する（XML電文の採用、ISO20022対応）とともに、稼働時間の大幅な拡大が可能となるシステム基盤を整備することにより、アクセス利便性を向上させる。

⇒ 稼働時間の拡大

⇒ ASEAN+3の域内決済システムの接続に関する提言を受けた検討

今後の課題

エンドユーザーのニーズを踏まえたサービスの提供

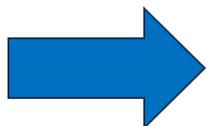
- 企業・家計のニーズの多様化やグローバル化への対応
- 多様な決済関連サービスの競争を通じたイノベーションの促進

決済インフラ・金融機関のシステムの高度化

- 情報技術革新の成果を活かした決済の効率性・安全性の向上
- 変化に柔軟に対応できる基盤の整備

関係者の合意形成や標準化に向けた取組み

- 金融EDIの利用促進に向けた銀行界と産業界の連携
- クロスボーダー決済の円滑化の推進



中長期的な視点が必要